

設立趣旨書

1 趣旨

いじめを苦にして自殺をする子供が後を絶たない近年、昨年 2020 年の小中高生の自殺者が 479 人（暫定値）、また一方で幼い子供の虐待死、ネグレクトといった子供を取り巻く悲しい事件が多発している現在の日本の社会の中で、特に SNS という匿名性を持った媒体の利用者の増加に加え、携帯電話所持の低年齢化が Line やコミュニケーションアプリを使った仲間はずれやいじめ、からかいといった新たな苦しみや辛さを作り出しています。誰かに相談するよう勧めたところで相談する事で状況がより一層深刻化してしまう例を間近で見ている事から、なかなか相談することもできず、一人悩み小さな胸の中を痛めている子供達が想像以上に多い現実があります。思春期の子供達は親に言えない悩みも増え（早期の妊娠や体の悩み、異性関係など）、親からの虐待や不登校からくる自傷行為を繰り返す子供達も増えています。どうにもならない気持ちをどうしたら良いかわからない未成熟な心をどう救っていくか、大きな課題であるという社会背景の中、現存する相談窓口は「予約をして出かけていく」「対面」であり大人が考える以上にハードルが高いと考えます。

子供達やその保護者達が相談しやすい環境を作るにはどうしたらいいかを熟慮した時、利用率の高い Line を使い、簡単にアクセスでき、非対面かつ文字ベースでできるカウンセリング窓口を開設することにいたしました。カウンセリングを行うだけではなく、ネグレクト、虐待といった緊急事案に関しては、警察、児童相談所、教育委員会といった外部リソースとも連携をとり、子供の命の安全を確保することも大切な使命だと考えています。

一方、子供とどう接したらいいかわからない保護者、虐待をしてしまう自分と戦いながら心の葛藤を重ねている保護者も相談先がわからず一人悩んでしまうそんな方々の相談できる先としての役割も大きいと考えており、子供の命が失われる前にそんな保護者の悩みと心に向き合い親身に相談にのり心の辛さを理解し対策をしていくこともとても大切なプロセスであると共に、カウンセリングのデータから子供の悩みの地域的な特徴や傾向を調査・研究し地域の問題として共有することも大切であると考えています。

水際で子供の命を救うことは重要ですが、たとえ命の危険を伴うほどの深刻な内容ではないとしても、悩める子供達にとっては目の前の悩み自体がとても辛いもので、「助けて、辛い、どうしていいかわからない」と言える場として、比較的簡単にアクセスすることができる方法でありかつ、親や兄弟に知られずに SOS を発せられる居場所を作っていきたいと考えます。11 年カウンセラーとして活動をして来て、個人でできる範囲がとても狭いこと限界があることを感じ、警察、児童相談所、教育委員会といった外部リソースとの連携を深め地域に定着する仕組み作りをする為にも、公正かつ透明性のある団体として社会的信頼を得て、地域の方々にも安心し頼りにしていただける団体としての法人化は急務であると考えます。事業目的も営利を目的とするものではないので会社法人の形式は似つかわしくないと考える事から「特定非営利活動法人ひまわりらぼ」を設立し地域のカウンセラーの皆さんや専門家の方々にも幅広く参加して頂き地域の子供を守っていく、見守っていく団体として地域に貢献していきたいと思っています。

Line アプリを使う背景には、利用者数 8600 万人（2020/11/30 Line IR 発表）と日本の SNS 利用率の中で飛び抜けて利用者数が多く、比較的低学年の子供から大人まで利用していることから、使用媒体としては適切ではないかと判断しています。

2 申請に至るまでの経過

平成 20 年よりカウンセリング事業を個人で開始し述べ 1000 人ほどのカウンセリング経験を積んできた。

令和 3 年 1 月 16 日 第 1 回設立準備会

令和 3 年 3 月 19 日 発起人会開催

令和 3 年 3 月 26 日 第 2 回設立準備会

令和 3 年 月 日

特定非営利活動法人ひまわりらぼ

設立代表者 神奈川県川崎市中原区市ノ坪 449-3-3301

代表理事 増川 佳代子 印